「大雨や台風の防災情報と避難行動」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

大阪府では、水害や土砂災害から人命を守るために、人命へのリスクが高い箇所から優先的に対策を実施するとともに、リスク周知や府民自らが適切な避難判断に必要な雨量、水位、河川カメラ画像、土砂災害危険度等の防災情報の充実を図っている。一方、平成30年７月から９月にかけて４度の風水害が発生し、大阪府内各地域において避難勧告等が発令され、大きな被害がもたらされた。ついては、安全・安心を確保するため、府民の防災情報活用状況と避難行動を調査し、河川カメラの効果検証や防災情報提供の検討資料とする。

1. 調査（検証）項目
	* + 1. 防災情報活用状況等の実態把握
2. 河川の防災情報サイトの認知度、利用実態
3. 洪水リスク表示図、土砂災害警戒情報、ハザードマップの認知度
4. 避難行動の状況
	* + 1. 仮説検証

仮説１　河川カメラを見た人は、見ていない人に比べ、避難行動をとっている。

仮説２　土砂災害警戒区域に住んでいる人は、そうでない人に比べ、大阪府土砂災害の防災情報サイトを利用しており、避難行動をとっている。

仮説３　土砂災害警戒区域に住んでいる人の中で、土砂災害の防災情報サイトを利用している人は、利用していない人に比べ、避難行動をとっている。

1. 調査対象

　・18歳以上の大阪府民1,000サンプル

ただし、平成30年７月5日から大阪府で観測された豪雨（7月豪雨）において、

洪水もしくは土砂災害の避難勧告・避難指示が発令された区域に居住し、発令を認識している人：６００人

発令地域以外（わからないを含む）：400人

・発令があった区域のある29市町村（豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、

島本町、豊能町、能勢町、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、東大阪市、四條畷市、交野市、

堺市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、和泉市、泉南市、阪南市、

熊取町、田尻町、岬町、千早赤阪村）

・発令がなかった14市町（大阪市、摂津市、守口市、柏原市、門真市、泉大津市、松原市、

羽曳野市、高石市、藤井寺市、大阪狭山市、忠岡町、太子町、河南町）

・地域割付　なし

1. 質問項目

予備質問 5問

SC1 性別

SC2 年齢

SC3 都道府県

SC4 市町村　→34市町村はSC5へ、9市町は本質問へ

SC5 自宅地区に７月豪雨の際、発令があったか（SA）（勧告・指示・両方・ない）

本質問 26問

Q１　普段から気象情報はどのような媒体で取得しているか(MA)

Q２　大雨や台風時に気になる情報(MA)

Q３　安全を意識し始める気象情報(SA)

Q４　携帯電話やパソコンでリアルタイムに河川状況を画像で確認できる情報サイトの認知(SA)

Q５　上記を知った媒体(MA)

Q６　ハザードマップの認知・利用(SA)

Q７　洪水リスク図の認知・利用(SA)

Q８　土砂災害警戒情報の認知(SA)

Ｑ９　自宅が土砂災害警戒区域か(SA)

【平成30年７月豪雨について】

Q10　７月豪雨時に利用した情報源(MA)

Q11　７月豪雨時に、河川カメラ画像を見たか(SA)

Q12　７月豪雨時に、土砂災害の防災情報サイトを見たか(SA)

Q13　【避難勧告・避難指示が発令された対象者】発令の種類(SA)

Q14　【避難勧告・避難指示が発令された対象者】発令を知った媒体(SA)

Q15　７月豪雨時の際にとった避難行動(SA)

Q16　【実際に避難（移動）した人】避難した理由(MA)

Q17　【実際に避難（移動）しなかった人】避難しなかった理由(MA

【７月豪雨の他、平成30年に起きた一連の気象災害について（台風第20号、台風第21号、

台風第24号）】

※以下、最も災害に対応した行動を取ったときの内容で回答。

Q18　最も災害に対応した行動をとった気象災害の種類(SA)

Q19　利用した情報源(MA)

Q20　河川カメラ画像を見たか(SA)

Q21　土砂災害の防災情報サイトを見たか(SA)

Q22　発令の有無(SA)

Q23　【避難勧告・避難指示が発令された対象者】発令を知った媒体(SA)

Q24　その時にとった避難行動(SA)

Q25　【避難（移動）した人】避難した理由(MA)

Q26　【避難（移動）しなかった人】避難しなかった理由(MA)

1. 仮説検証

仮説1　Q11×Q15、Q20×Q24

　　仮説2　Q9×Q1、Q9×Q12、Q9×Q21、Q9×Q15、Q9×Q24

　　仮説３　Q9・Q12×Q15、Q9・Q21×Q24